

2006年5月19日

【報道関係各位】

株式会社ベネッセコーポレーション  
代表取締役社長兼 COO 森本昌義  
(コード番号 9783 東証・大証第一部)

## 毎日家族そろって朝食を食べる家庭は3割弱 関西圏・中京圏のパン食比率は7割と全国平均から突出して高い ～ベネッセ食育研究所調査から、朝食に関するデータをご紹介します～

株式会社ベネッセコーポレーション(以下、ベネッセ)の食育専門の社内研究所「Benesse 食育研究所」では、研究テーマのひとつに「朝食」があり、継続的に調査を行い、結果を蓄積しています。

全国で「早寝早起き朝ごはん」を促進する運動が盛んになり、何かと朝食が注目される昨今、このVol.2では、Benesse食育研究所の保有するデータから、今どきの日本の朝食に関する内容をご紹介します。

### (1) 子どもの朝食(2004年9月調査より)

- ・「朝食を家族全員で食べる」という家庭は3割を切る
- ・逆に「子どもだけで食べる」家庭が3割を超えて最も多数

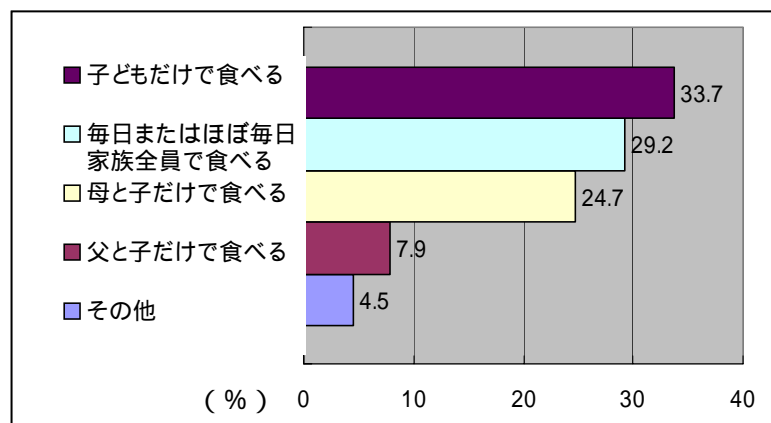
### (2) 家族の食卓(2006年2月調査より)

- ・全国的に「ご飯派」より「パン派」が優勢
- ・「関西圏と中京圏がパン派」「関東圏は比較的ご飯派」といった地域での違いがある
- ・「子ども」「母親」「その他の家族」のなかでも「パン派」「ご飯派」の比率が異なる

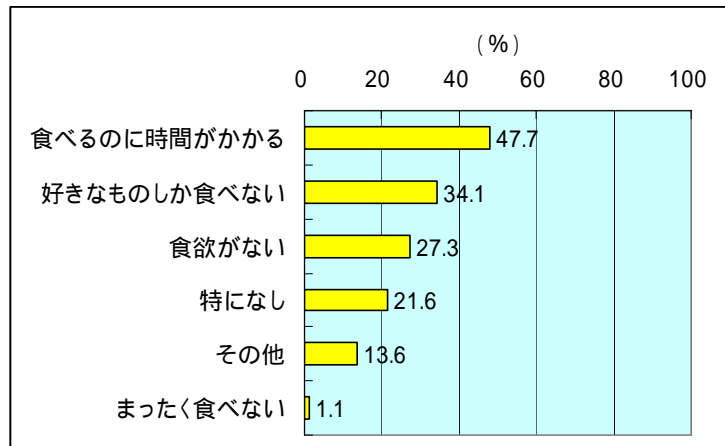
## (1) 子どもの朝食編

期間 : 2004年9月  
対象 : 小学生の子どもをもつ母親(「ボンメルシィ! スクール」の読者)  
形式 : 郵送による調査  
有効回答数 : 84名

平日、お子さんは  
誰と朝ごはんを食べますか?



お子さんの朝ごはん  
困っていることは何ですか？  
(複数回答)



## 【コメント:(2)- ~ のデータに関して】

子どもが誰と食べるかという問いに対して、回答のトップは「子どもだけで食べる」でした。毎日家族全員で食べている家族は約3割という結果でした。

子どもの朝食で困っていることのトップが「食べるのに時間がかかる」ということから、出勤前の忙しい時間帯にゆっくりと食卓を囲んで…という余裕がなく、準備した食事を子ども自身のペースで食べさせている現状が浮かびます。

## (2) 家族の朝食編

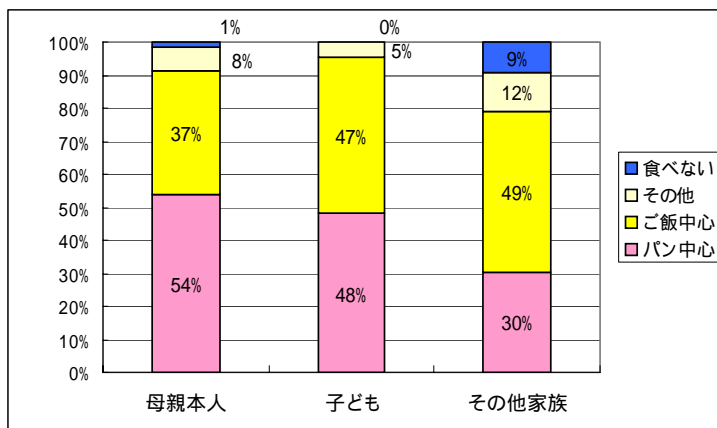
### 【調査概要】

期間 : 2006年2月21日～3月7日  
対象 : 小学生の子どもをもつ母親(「ボンメルシィ! スクール」の読者)  
形式 : 郵送による調査  
有効回答数 : 374名

### 平日の朝食メニュー(属性別)

「あなたのお宅の平日の朝食メニューは何ですか?」という設問に対して、「母親本人」「子ども」「その他家族(ほぼ父親を指す)」別にデータをとったところ、属性別に異なる結果となった。

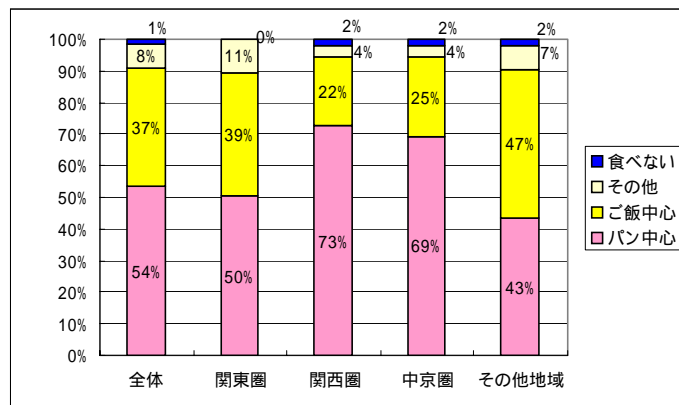
### 【あなたのお宅の平日の朝食メニューは何ですか?】



## 朝食メニューに地域性はあるのか？

で採取した母親本人のデータを素材に、さらに地域別に詳細を見ると、「関東圏」「その他地域」と「関西圏」「中京圏」で傾向の違いが見られた。(子ども、その他家族でも同傾向)

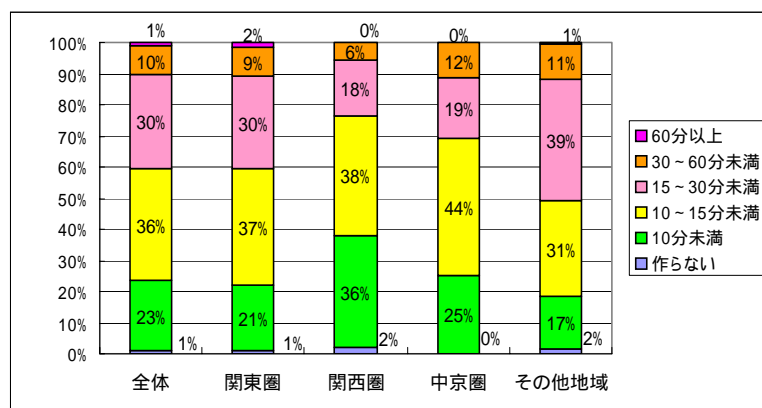
### 【あなたのお宅の平日の朝食メニューは何ですか？ (母親データから)】



## 朝食の調理時間はどのくらいなのか

朝食の調理時間について比較したところ、こちらも「関東圏」「その他地域」と「関西圏」「中京圏」で傾向の違いが見られた。

### 【朝食の調理時間はどのくらいですか？】



### 【コメント:(1)- ~ のデータに関して】

朝食の形式では、母親は「パン中心」という声が目立ちますが、子どもは「パン中心」と「ご飯中心」がほぼ同数になり、大人と比較すると「子どもの朝食にはご飯を用意」という意識があるのではと推測できます。一方、父親は「食べない」が約1割、その他の12%も「飲み物だけ」という回答がほとんどを占めるので約2割強が朝食欠食の状況です。

メニューは全体的に「パン中心」のほうが多く、朝食ではパン食が根付いていることがうかがえます。特に約7割を占める関西圏・中京圏でのパン食の突出ぶりが目立ちます。一方で関東圏およびその他地域では「ご飯中心」という声は4割程度あり、関西圏・中京圏ほどパン食が伸びていません。

この理由は今回の調査のみではわからず、推測するしかありません。研究所内では、「納豆を食べない」と関係があるのでは？(関西圏)、「モーニング文化の影響も考えられるか？(中京圏)」などの大胆な仮説も生まれており、今後の研究テーマとなるかもしれません。

また、朝食の調理にかける時間についても調査しましたが、関西圏・中京圏は他に比べて短い傾向があるようです。これはパン食の多い地域と重なりますので、朝食のメニューと関係していると考えたほうがよさそうです。

# Benesse<sup>®</sup> 食育研究所 通信 Vol.2

## 「Benesse 食育研究所」の概要

名称	Benesse 食育研究所 (ベネッセしょくいくけんきゅうじょ)		
設立日	2006年4月1日		
位置づけ	食育を専門テーマとする社内研究部門		
所長	伊藤正明 [㈱ベネッセコーポレーション執行役員]		
所在地	〒101-8686 東京都千代田区神田神保町 1-105	神保町三井ビルディング	
連絡先	電話:03-3259-1144 / FAX:03-3259-1503		

## 「Benesse 食育研究所」活動の背景

ベネッセでは、子どものいる家庭向け“食育専門誌”『bon merci!』(以下、ボンメルシィ!/直販誌)を2001年に創刊しました。そして、これまでの5年間、読者である母親を対象にした「食」の意識調査を継続的に実施してきました。

5年間で蓄積した独自データは、「食生活における意識」などの基礎的な内容から、「調味料の常備率の地域差」などのユニークな詳細まで、多岐にわたります。

また、『ボンメルシィ!』以外にも、ベネッセでは、家庭向け・学校向けの教育事業やその基礎となる研究活動(80年代に開始)において、朝食と学力の関係をはじめとして、様々なデータを蓄積しています。

食育への関心が全国的に高まる中、ベネッセでは、蓄積した上記データについて、事業での活用を強化すること、加えて社会全体の関心をさらに高めていくため積極的な発信活動を行なうことの必要性を感じ、独立した専門組織として社内に研究所を立ち上げ、活動を開始しました。



## 「Benesse 食育研究所」の今後の活動

毎月19日(食育の日)に、このようなレター形式で保有データをピックアップし、紹介していきます。また、2006年5月末に独自webサイトを立ち上げ、紹介データを格納していく予定です。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社ベネッセコーポレーション

Benesse 食育研究所 担当:脇・石坂 電話 03 - 3259 - 1144 / FAX03 - 3259 - 1503

広報・IR部 担当:濱野・及川 電話:042-356-0657 FAX:042-356-7301